

レポートの対象インスタンスがWindowsおよびVMwareの場合の仕様について記載しています。
Linuxの場合の仕様については、「BOM Report オプション Ver.7.0 SR4 レポート出力仕様 [Linux]」をご確認ください。

■ ■ 新機能/仕様変更/機能改善 ■ ■

【BOM Report オプション Ver.7.0 SR3 → BOM Report オプション Ver.7.0 SR4】
機能および仕様の変更はありません。

【BOM Report オプション Ver.7.0 SR2 → BOM Report オプション Ver.7.0 SR3】
機能および仕様の変更はありません。

【BOM Report オプション Ver.7.0 SR1 → BOM Report オプション Ver.7.0 SR2】
機能および仕様の変更はありません。

【BOM Report オプション Ver.7.0 → BOM Report オプション Ver.7.0 SR1】

1. Reportデザインの新規追加

- VMwareを対象にした4つのReportデザインを追加しました。各仕様は、一覧表を参照してください。
 - 601_サーバー診断レポート
 - 603_詳細グラフ情報(縦)
 - 604_システム基本情報
 - 615_VMwareログリスト

2. Reportデザインの変更

- Windowsのサーバー診断レポートについて、NICのパケットロス情報を追加しました。またこの情報追加に対応するため、Windows サーバー診断レポート用テンプレートが更新されました。Ping応答時間が期間内、すべてタイムアウトした場合、そのグラフは出力されませんが同じ宛先でパケットロスと合わせて監視することで、パケットロスの値によりグラフが出力されます。

3. レポートデータベース設定ウィザードのインスタンス名の表示を改善

- アーカイブデータベースに、ホスト名が異なるコンピューターから同じインスタンス名で情報がアーカイブされていた場合、BOM 7.0 レポートデータベース設定ウィザードの出力設定画面で判別できるよう表示を改善しました。

4. レポートデザインのフォルダー構成を変更

- レポートデザインの追加・変更に伴い、レポートデザインファイルのフォルダー構成を変更しました。BOM 7.0からBOM 7.0 SR1へアップグレードされる場合、BOM 7.0のレポートデザインはBOM 7.0 SR1のレポートデザインへすべて置き換わります。

5. レポートの出力時の保存動作を変更

- レポート出力の際、保存先に同名のファイルが存在した場合、上書きせず名前に連番を追加して保存します。

6. ReportETL.exeが使用するディスク使用量、メモリ使用量を改善

- ReportETL.exe動作中の処理を見直し、ディスク使用量、メモリ使用量を削減しました。
*ReportETL.exeについての詳細は、「BOM Report オプション Ver.7.0ユーザーズ マニュアル」を参照ください

■ ■ 注意・制限事項 ■ ■

1. ReportオプションでMHTMLに出力し印字した場合、ページが繰り上がる場合がある

- MHTファイルに出力しブラウザで印刷した場合、部分的にページが繰り上がる場合があります。

2. Reportオプションで出力対象のデータ期間が短い場合、レポート上の棒グラフが太く出力される場合がある

- 出力対象のデータ期間が極端に短い場合、各レポートの棒グラフが通常より太く出力される場合があります。これは製品特性上の仕様です。

3. Reportオプションで出力対象のデータ期間が長い場合、レポート上の日付が省略されて出力される場合がある

- 出力対象のデータが長い場合、各レポート上のX軸に出力される日付が省略されて出力される場合があります。これは製品特性上の仕様です。
例 12/1 → 12...

*BOM 7.0 SR2～SR4における 101 サーバー診断レポート、603 詳細グラフ情報におけるグラフでは日付が縦書きのため該当しません。

4. Reportオプション 008_プロセス詳細情報の4グラフで、出力対象期間中に何らかの理由で監視データが存在しない場合、X軸上の日付はその期間が省略され不連続になります。詳細グラフ情報など他のレポートと合わせて確認して下さい。

5. MHTおよびEXCEL形式で出力した場合、文字フォントの大きさの違いにより記載される領域を超えて文字が切れることがあります。

6. ログ情報を出力する各レポートで、ログメッセージが長文(1頁の1/4程度)になるほど、文字間隔が拡がる場合があります。これは製品特性上の仕様です。

■ ■ 各レポートデザインの注意・制限事項 ■ ■

インスタンス	レポートデザイン	概要
全インスタンス (VMware以外)	514_全インスタンス概要(横)	<ul style="list-style-type: none"> Ping項目は、Windowsのインスタンスのみ有効です。Linuxは対象外となります。 レポートウィザードで指定したインスタンスに限らず、すべてのインスタンスが出力対象となります。 インスタンスを複数指定すると、指定したインスタンスの数が部数となり同じ帳票が出力されます。 ※VMwareのインスタンスは対象外となります。
	514_全インスタンス概要(縦)	<ul style="list-style-type: none"> Ping項目は、Windowsのインスタンスのみ有効です。Linuxは対象外となります。 レポートウィザードで指定したインスタンスに限らず、すべてのインスタンスが出力対象となります。 インスタンスを複数指定すると、指定したインスタンスの数が部数となり同じ帳票が出力されます。 ※VMwareのインスタンスは対象外となります。 ※(横)のレイアウトと異なり、OS名とバージョンを「OS情報」として出力します。
Windows	101_サーバー診断レポート	<ul style="list-style-type: none"> ◆サーバー診断で出力されるレーダーチャートの目盛りの上限値は、診断項目(平均値)により以下となります。 すべての診断項目が、100%以下の場合、100%が上限値 1項目(ハードディスクアクセス状況)でも100%を超える場合、自動的にその値近辺が上限値 Ping監視で、同じ宛先を複数指定すると、出力も複数の表+グラフを繰り返します。 Ping監視において、出力期間内ですべて応答時間がエラーで取得できない(時間のデータが無い)場合、評価コメントは出力されません。
	102_過去比較情報	(記載事項はありません)
	103_詳細グラフ情報(横)	<ul style="list-style-type: none"> グラフ横軸の期間を1週間単位で出力 期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力 ※Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。 この変化によりグラフ域に縦縞(棒グラフにおける隙間)が発生することがあります。

	103_詳細グラフ情報(縦)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ横軸の期間を1週間単位で出力 期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ・グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力 ※Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。 この変化によりグラフ域に縦縞(棒グラフにおける隙間)が発生することがあります。
	104_システム基本情報	(記載事項はありません)
	105_ハードウェア情報	・2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
	106_ソフトウェア情報	・2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
	107_ハードウェア・ソフトウェア差分情報	(記載事項はありません)
	108_プロセス詳細情報	<ul style="list-style-type: none"> ・CPU利用率における特異点を指示す①などは非表示です。 ・4つめの◆ネットワーク利用率のグラフはNIC単位に縦棒グラフで出力します。 その他3つのグラフはプロセスを系列とした積上げ縦棒グラフで出力します。
	109_ディスククォータ情報	<ul style="list-style-type: none"> ・前回比が求められない場合、「-」と出力します。 前回比が増加の場合、値の前に「+」などの符号は出力はしません。
	110_アプリケーションログ情報	(記載事項はありません)
	111_システムログ情報	(記載事項はありません)
	112_セキュリティログ情報	(記載事項はありません)
	113_セキュリティログ詳細	(記載事項はありません)
	115_ArcserveUDpv6ログリスト	(記載事項はありません)
	116_Hyper-V仮想環境レポート	(記載事項はありません)
VMware	601_サーバー診断レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・同項目を複数監視している場合、その複数の項目と各値をすべて出力します。 ・各項目をVMware社のガイドラインに記載の各項目で診断しますが、WindowsやLinuxで出力する総合的な診断はありません。 ・ストレージとして出力されるデータストアの量的な制限はありません。 ・ネットワークとして出力される物理および仮想の各NICは、最大3つまでの出力となります。
	603_詳細グラフ情報(縦)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ横軸の期間を1週間単位で出力します。 期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ・グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力します。 ※Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。 この変化によりグラフ域に縦縞(棒グラフにおける隙間)が発生することがあります。
	604_システム基本情報	(記載事項はありません)
	615_VMwareログリスト	(記載事項はありません)

*1 008_プロセス詳細情報における特異点の算出方法

下記の3つの処理により、上位5プロセスとその他(* Other)の特異点を決定します。

STEP1: 対象期間、対象インスタンスにおいて最大のCPU利用率となる5プロセスを求めます。

*同じ時間で、同じプロセスは加算

*_Total.IDLEは除外、BOM関連は対象

STEP2: その5プロセスがある日時を10ヶ所求めます。

STEP3: その日時において、5プロセスに含まれない他のプロセスを「* Other」として合算します。

■■ 出力ファイルサイズの目安 ■■

Reportオプションデザインファイル仕様に記載のレポートで利用したインスタンスを出力すると総ページ数とサイズは以下となります。

(単位:KB)

	総ページ数	PDF	サイズ/ページ	EXCEL	サイズ/ページ
BOM7	59	14,727	249.6	580	9.8

PDFのサイズがページあたり大きくなっていますが、以下によるものです。

- ・グラフやアイコンなどをイメージ出力する解像度
- ・出力環境にフォントが無くても出力が可能ないように、フォント情報の組込